

佐久のヤドリギ（科）の分布

池田 登志男

T. Ikeda : Distribution of Loranthaceae in Saku

はじめに

佐久におけるヤドリギ科植物は、ヤドリギ属のヤドリギ *Viscum album* L. Subsp. *coloratum* とホザキヤドリギ属のホザキヤドリギ *Hypheastrum nakae* の2種が分布している。

ホザキヤドリギは近年、大分増えてきているように思われる。

そこで、現時点での両種の分布を把握するために数年間調査をした結果をまとめてみた。

調査の概要

○調査期間 1986.12～1991.1

○調査及び記録の方法

- ・主として冬期、落葉後の観察によるが、巨木調査、針葉樹の分布調査などの折に同時に行う。
- ・1つの森、社寺林などのまとまりは1か所として1地点（分布図でマークは1つ）とする。即ち、何本もの木に寄生していても、1本の木に何株も寄生していても1ポイントとする。ただし1か所でケヤキとコナラに寄生している場合、分布図では1ポイントであるが、寄生する樹種は、それぞれ1ポイントとする。

記録したポイント数

ヤドリギ 50か所

ホザキヤドリギ 46か所

うち、10か所は両種共通ポイント（同じ木に2種寄生）

結 果

ヤドリギ

- ・11種の木に寄生
- ・記録したポイント50か所のうち
 - ケヤキ 15 (29%)
 - コナラ 8 (17%)
 - シダレザクラ 6(12%)
- などが多いが、科でまとめてみると
 - ぶな科 17 (34%)
 - ばら科 14 (28%)
 - ケヤキ(にれ科) 15 (29%)
 - その他 4 (8%)

ホザキヤドリギ

- ・7種の木に寄生
- ・記録したポイント46か所のうち
 - ケヤキ 30 (65%)
 - シダレザクラ 9 (20%)
- この2種で85%を占める。
- ばら科をまとめてみると
 - ケヤキ(にれ科) 30(65%)
 - ばら科 13 (28%)
- ケヤキとばら科で93%を占める。その他は、7%である

表1 ヤドリギ（科）の寄生した樹種

寄生した樹種	ヤ ド リ ギ		ホザキヤドリギ		
	分布地数	分布地数に対する割合	分布地数	分布地数に対する割合	
ケ ヤ キ	カ所 15	29%	カ所 20	65%	
シダレザクラ ソメイヨシノ他	6 2	8	9 2	11	24
ウメ・アズミ	2	14	1	2	
ナ オ ナ シ	2 2	4	1	2	
コ ナ ラ	8 5	13	2	5	
ミズナラ	5	17	—	—	
ク ス ギ	1 3	3	—	—	
シラカバ ヤマハシノキ モトゲイタヤ	2 1 1	4 2 2	— — 1	— — 2	
合 計	50	100	46	100	

（ヤドリギ）

種としては

ケヤキが最も多く29%、コナラ、シダレザクラ、ミズナラなどがそれに続く。
・科でまとめてみるとぶな科が最も多いが、ぶな科、ばら科、ケヤキ（にれ科）が、ほぼ $\frac{1}{3}$ ずつで、その他はごく少ないことがわかる。

・寄生する樹種について文献等によると、

主にミズナラ、クリ、ケヤキ、ブナノキ、エノキ等、このほかコナラ、ナカマド、オノエヤナギ、クマシデ、オオズミ、サクラ類にもつく、分布は北海道、本州、四国、九州、朝鮮、満州、中国

（ホザキヤドリギ）

コナラが2か所、モトゲイタヤが1か所だけである。
ケヤキとサクラ類が圧倒的に多く、全体の89%を占める。また、ばら科の中では、シダレザクラが大半を占め、それ以外の種は、ごく少ないようである。

本州北中部の温帯林に見られる緑葉をもっている寄生植物で主にミズナラに寄生し朝鮮にも産する。

（原色日本樹木図鑑 保育社 昭, 34）

高さ30～80cmになる常 高さ20～40cmの落葉低

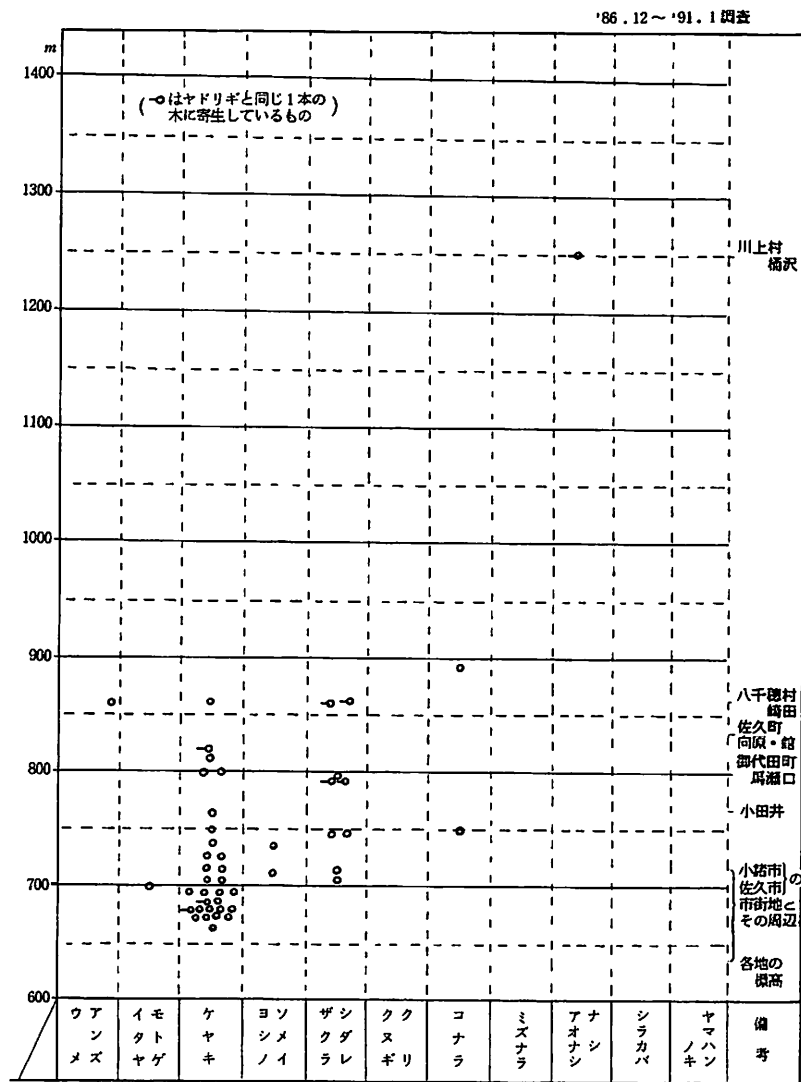


図2 ホザキヤドリギの分布

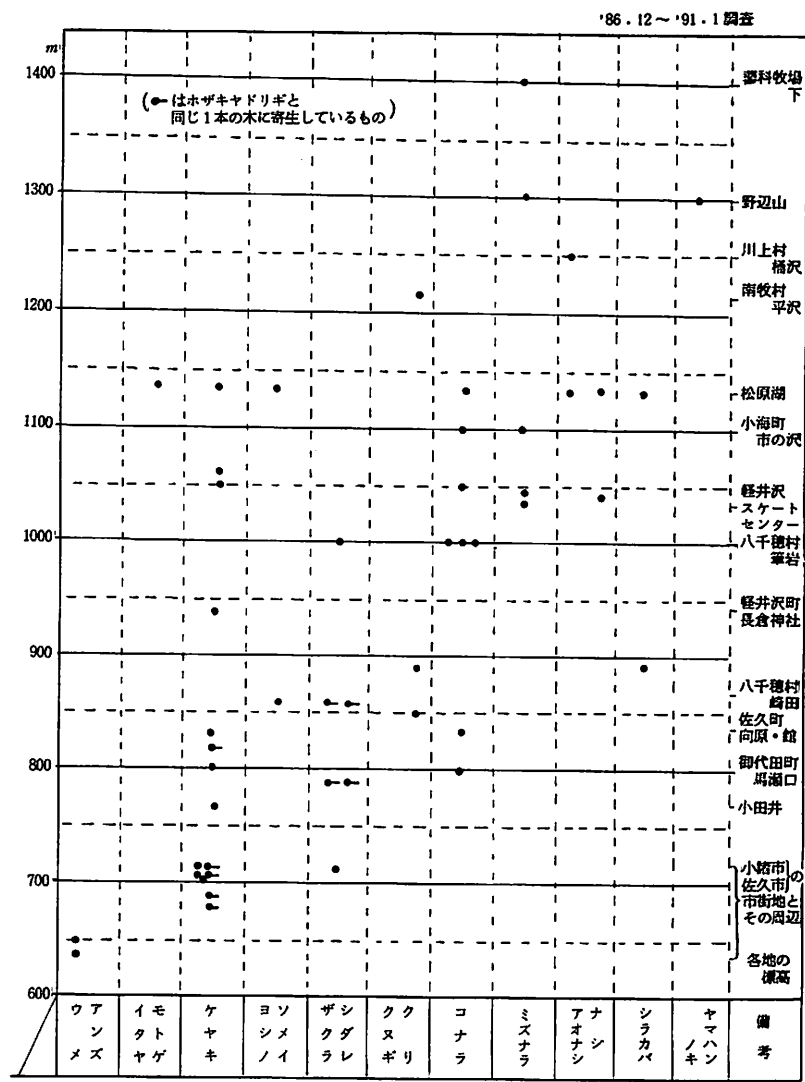


図1 ヤドリギの分布

(ヤドリギ) (ホザキヤドリギ)
 緑低木。ケヤキ、エノキ、木。ミズナラ、クリ、ハ
 ミズナラ、ブナ、サクラ ソノキなど落葉広葉樹に
 など種々の木に寄生する。寄生する。

(日本の野生植物 木本 I
 平凡社 1989)

佐久では、ナナカマド、佐久では、ミズナラ、
 オノエヤナギは多いが全 ハンノキ、クリ、では全
 く見られなかった。ブナ、く見られず、文献に記さ
 エノキ（個体数は少ない） れていないケヤキとサク
 でも記録はできなかった。ラ類が最も多い。

松原湖畔のヤドリギの分布

松原湖（標高1,123m）畔は、ケヤキ、トチノキ、
 コナラ、ハンノキ、オニグルミ、ヤチダモ、ナツツ
 バキ、カラマツ、アカマツ、コメツガ、イチイなど
 の高木が多く、特に目通り直径50cm以上あるいは1
 m以上の大木が多い。

ここではホザキヤドリギはなく、ヤドリギ（アカ
 ミヤドリギも含む）が大変多い。1991年1月27日筆
 者の調査で記録したヤドリギの寄生した（していな
 い）樹種とその数は次表のようである。

樹種	コナラ	ケヤキ	ナシ	カエデ類	サクラ類	シラカバ
寄生していた木の数	46	8	2	1	1	1
寄生していなかった木の数	—	6	—	2	3	5

(注)・寄生していない木の記録は寄生している木
 と同じくらいの大木の数を記録した。

トチノキ（直径50～60cm以上の大木）9本
 ヤチダモ（直径1mくらいの大木）3本
 オニグルミ（高木）数本、コブシ（直径60cm）1本
 ハンノキ（高木）8本、ナツツバキ（直径50cm）1本
 は、近くにヤドリギの寄生したケヤキやコナラがあ
 るが、いずれも全く寄生は見られなかった。

稲荷山（臼田町）のホザキヤドリギの分布

南佐久郡臼田町の稲荷山（749m）は千曲川に面
 した東側の急斜面から北側の東寄り斜面が雑木林で
 西側と南側は住宅や畑になっていて、山頂は台地状
 に平らで公園になっている。

ここにはヤドリギはなく、ホザキヤドリギが東斜
 面の北寄りの部分から北斜面にかけて分布している。

この雑木林は、ケヤキ、コナラ、クヌギ、オニ

グルミ、ニセアカシヤ、シラカバ、アカマツ、カラ
 マツなどが主な高木である。

千曲川に接する山麓も上記のような樹種の林になっ
 ていて、目通り直径およそ30cm以上の高木は筆者の
 1991年1月17日の調査で数えたところでは、ケヤキ
 26本 コナラ8本 オニグルミ3本 その他にアカ
 マツ、ニセアカシヤなどの高木が点在しているが、
 ホザキヤドリギは全く見られない。

山頂付近も南半分の区域はコナラ、クヌギ、シラ
 カバなどの林になっているが全く見られない。栽植
 されたソメイヨシノ（直径20～30cm以上）は20本以
 上あるが、やはり1株も見られない。

北寄りの区域には寄生している木が多く、また1
 本の木にたくさん寄生していて遠くからも黄色い花
 が咲いたように見える。

この区域での記録は次表のようである。

樹種	ケヤキ	コナラ	クヌギ	シダザクレ
寄生していた木の数	8	20	1	1
寄生していなかった木の数	3	21	7	0

(注)・コナラは直径10cm、高さ2mくらいの木
 にも寄生がみられた。

・寄生していない木の記録はヤドリギの場
 合同じ。

表2 ヤドリギ（科）の標高別分布

標高	ヤドリギ		ホザキヤドリギ	
	分布地数	分布地総数に対する割合	分布地数	分布地総数に対する割合
600 m以上～800 m未満	カ所 14	% 28	カ所 35	% 76
800 m ～1,000 m	12	24	10	22
1,000 m ～1,200 m	19	38	—	—
1,200 m～	5	10	1	2
合計	50	100	46	100
標高	カ所 25	% 50	カ所 45	% 98
	900 m以下			
900 m以上	25	50 %	1	2

ヤドリギ

表2でわかるように標高を200mずつ区切ってみると平地（標高600m～750mあたり）から1,200mあたりまでは、ほぼ平均的に分布して、1,200m以上では少なくなっていることがわかる。

また、標高900mを境としてみると、それより高所と低所は全く同じ割合で50%ずつになっている。

ホザキヤドリギ

ヤドリギに比べて寄生する樹種もずっと少ないが、標高でみても、900m以下に分布するものが98%を占めている。ただ1か所1,250mの記録は川上村桶沢の野菜畑地域の道端に村の天然記念物指定のアオナシの大木が1本あり、その木にヤドリギといっしょに寄生しているもので、分布図からみると標高では、むしろ例外と見られそうである。

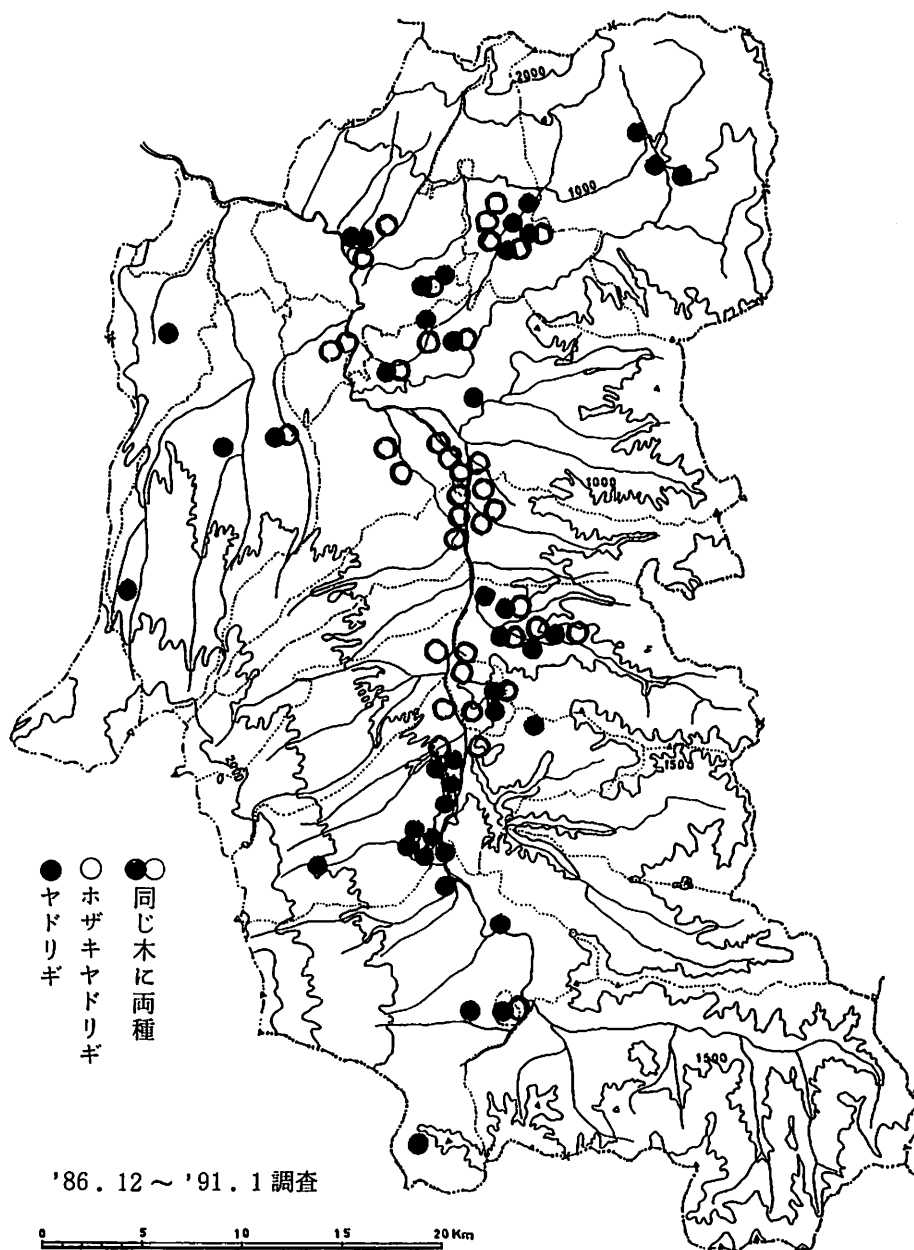


図3 佐久のヤドリギ（科）の分布

今後の問題

今回の調査で、佐久のヤドリギ科2種の分布について、寄生する樹種や標高との関連などが、ほぼ明らかになったが、このような分布の実態と鳥類との関連などは全く調査していない。ホザキヤドリギの実を食べているヒレンジャクの群を3か所で見たと、野鳥の研究者から、「ヤドリギの実を食べるのはヒヨドリ、ヒレンジャク、キレンジャクなどが多い、そのほかツグミ、ホオジロ、ムクドリなども食べるようだ。」という話を聞いたことだけである。

ヤドリギ科2種の分布と鳥との関連を考えると、次のような課題が出てくる。

- ・ケヤキの大木が何本も並んでいて、1本にたくさん寄生しているのに隣接する木には全く寄生していない。
- それは木の個体差によるのか、実を食べる鳥の行動によるものか。
- ・ホザキヤドリギは標高の高い地域には分布して

いない。文献等によれば主にミズナラに寄生するとされているが、佐久ではミズナラの分布する1,000m以上には、ほとんど分布していない。それは、種として生態的にみて生息できないのか、実を食べる鳥の種類や行動との関連の問題なのか。

- ・ホザキヤドリギが、近年増えているとしたら、それは、実を食べる鳥の種類と関係があるのか。
- ・ヤドリギとホザキヤドリギとの実を食べる鳥の種類は違うのかどうか。

以上のような問題が究明されれば、佐久のヤドリギ科2種の分布について、その起因するところも明らかになるように思われる。

参考文献

- 佐竹義輔他編1989 日本の野生植物 木本 I 平凡社
岡本省吾 昭, 34 原色日本樹木図鑑 保育社
平野弘二 1989 冬の樹木 保育社
馬場多久男 1984 冬芽でわかる落葉樹 信濃毎日

〔新刊紹介〕林一六著「植生地理学」A5判, 269頁。1990年3月発刊, 3,090円。大明堂。

本書は、大明堂の地理学講座の第5巻にあたる。著者が筑波大学の地理学専攻の学生に講義している植生地理学をまとめたものであり、教科書として刊行したとのことである。多分、日本の大学では、植生地理学という講義はほとんど行なわれていないと思われるが、このような授業が行なわれている大学の学生は幸せであるし、講義を開講している筑波大学に敬意を表したいが、またそれを講義することは大変である。我国ではまだ、本題を専門に学んだり研究する講座もないし、研究も端緒である。その理由は、歴史が有り、国際的研究が進んでいる植物地理学と異なり、歴史が若く、国際化がまだ進んでいないためである。国内では横浜学派などにより、植生地理学は飛躍的に進んだが、学問のテーマからも、地球全体を視野に入れた研究と体系が確立されなければならない。最近ようやく世界的レベルの研究が始まったばかりである。そのような中で、世界各地の現地調査の経験深い著者によって、本書が刊行されたことは、同学の発展にとってその端緒となるものである。若い学徒が基礎的な知識を本書で学び、さらに世界に目を開いていくことを期待したい。なお、本書の構成は、全7章のうち、多くの章に植物生態学の基礎知識が当てられており、それらを学ぶテキストにも活用できるし、世界の自然を知るにも手軽なテキストといえる。(K. T.)

国際蛇紋岩生態学会議に出席して

1991年の6月19日から22日まで、アメリカ合衆国カリフォルニア州デーヴィス市にあるカリフォルニア大学を会場に国際蛇紋岩生態学会議(The International Conference on Serpentine Ecology)が開かれ出席しましたので、ここにご報告いたします。

会議に先立って、18日の夜会議出席者の顔合わせがあり、カリフォルニア・ワインで乾杯しました。日本からこの会議に出席したのは、北海道の網走市にある東京農大農場劇場長の水野直治先生と私の二人だけで、結局アジア全体としても、我々二人だけでした。19日は、スタンフォード大学のコールマン(R. G. Coleman)教授の「蛇紋岩の地質学的進化」という特別講演でスタートし、続いて、ワシントン大学のクルックバーグ(A. R. Kruckeberg)名誉教授の「北米西部の蛇紋岩生物」という特別講演がありました。私は、21日の午後、アフリカ、アジアおよびオセアニアの蛇紋岩フローラという共通テーマの中の一つとして「日本の蛇紋岩植物：分布と分類」という題で話をしました。

最終日22日はカリフォルニア州の蛇紋岩地帯へのエクスカージョンがあり、州花であるケシ科のCalifornia poppy (*Eschscholzia californica*)の黄色い花、ユリ科のYellow Mariposa (*Calochortus luteus*)の淡黄色の花、リンドウ科のAlkali Centaury (*Centaureum trichanthum*)のピンクの花などが見事でした。(豊国秀夫)